

テーマ	総合原価計算（仕損・減損）				
学籍番号	/	/	/	/	氏名

1. 次の資料に基づき、(1)、(2)、(3)、(4)の当月の完成品総合原価と月末仕掛品原価を計算しなさい。  
 当月の生産データおよび原価データは次のとおりである。

〔生産データ〕

月初仕掛品	600個	(20%)
当月投入	1,020個	
合計	1,620個	
正常仕損	120個	
月末仕掛品	300個	(80%)
完成品	1,200個	

※（ ）内は加工進捗度を示している。なお、材料はすべて始点で投入している。

※仕損は、通常発生する程度のもの（正常仕損）であり、1個あたり¥100の処分価格がある。

なお、正常仕損品の評価額は全額直接材料費の計算で控除する。

〔原価データ〕

	材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥160,200	¥32,400	¥192,600
当月製造費用	¥244,800	¥435,600	¥680,400

- (1) 先入先出法 ※仕損が工程の終点で発生している場合

完成品総合原価	716,400円
月末仕掛品原価	144,600円

- (2) 先入先出法 ※仕損が加工進捗度50%地点で発生している場合

完成品総合原価	704,200円
月末仕掛品原価	156,800円

- (3) 平均法 ※仕損が工程の終点で発生している場合

完成品総合原価	714,000円
月末仕掛品原価	147,000円

- (4) 平均法 ※仕損が加工進捗度50%地点で発生している場合

完成品総合原価	704,400円
月末仕掛品原価	156,600円

授業の感想など	
---------	--

テーマ	総合原価計算（仕損・減損）				
学籍番号	/	/	/	/	氏名

2. 次の資料に基づき、(1)、(2) の完成品原価、月末仕掛品原価、異常仕損費を求めなさい。月末仕掛品への原価配分方法は先入先出法によること。なお、正常仕損費の処理は非度外視法によること。

## 【資料】

## ① 当月の生産データ

月初仕掛品	800 個	(0.9)
当月投入	<u>5,800 個</u>	
合計	6,600 個	
正常仕損	400 個	
異常仕損	400 個	(0.4)
月末仕掛品	<u>800 個</u>	(0.5)
完成品	<u><u>5,000 個</u></u>	

※（ ）内の数値は加工進捗度及び仕損の発生点を示している。

※なお、材料はすべて工程の始点で投入された。

## ② 当月の原価データ

	直接材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥60,000	¥82,800	¥142,800
当月投入原価	¥568,400	¥793,600	¥1,362,000

③ 仕損はすべて当月投入分のみから生じ、仕損品 1 個あたりの評価額は正常、異常を問わず¥11 である。

## (1) 正常仕損が 0.7 で発生している場合

完成品総合原価	1,296,000 円
月末仕掛品原価	140,400 円
異常仕損費	59,600 円

## (2) 正常仕損が 0.3 で発生している場合

※異常が正常の発生点を通している場合は、異常は正常を負担する。

完成品総合原価	1,281,200 円
月末仕掛品原価	150,400 円
異常仕損費	64,400 円

授業の感想など	
---------	--